

環境に関する市民アンケート調査の実施について（速報）

1 概要

環境に関する市民の意識や行動について定点観測的に傾向を把握するため、平成 21 年度から民間調査機関を活用した効率的な方法によりアンケートを実施しています。

平成 23 年度は、昨年度のアンケート項目を、新たな「横浜市環境管理計画」の施策体系に沿って見直し、調査を実施しています。調査結果から市民の環境に関する意識や市政に対する満足度・要望等を把握し、今後の環境分野の市政運営や政策立案の基礎資料として活用します。

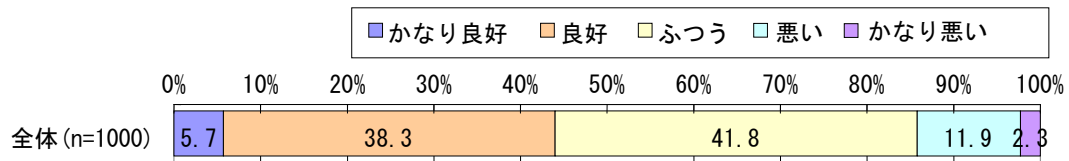
調査対象	満 20 歳以上の市民 1,000 人
調査方法	民間調査会社登録モニターのうち横浜市在住の 20 歳以上を人口構成比に基づき性別・年代・市域を東西南北に分けた地域別に割り付け、上記を対象に実施。
調査期間	平成 23 年 9 月 16 日（金）～26 日（月）

2 設問項目

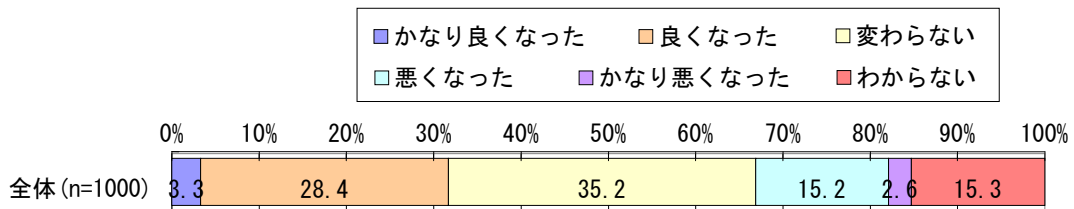
- Q1. 横浜の環境の現状についてどのように感じているか
- Q2. 横浜の環境は 10 年前と比べてどのようになったと感じているか
- Q3. 市内の環境への満足度
- Q4. 環境に対する関心や行動
- Q5. 関心のある環境問題や環境活動
- Q6. 環境にやさしい生活をするために実践していること、震災前後の意識や行動の変化
- Q7. 環境行動を実践するうえで難しい点、行動できない、行動しない理由
- Q8. 環境の保全と生活の便利さ・快適さについての考え方
- Q9. 地域の環境活動に参加したいと思うか
- Q10. どんな活動や取組に参加したことがあるか、参加したいと思うか
- Q11. どんな形態の活動に参加したことがあるか、参加したいと思うか
- Q12. 地域の環境活動に参加しない、あるいは参加できない理由
- Q13. 環境問題や環境活動に関して、必要な情報は得られているか
- Q14. 環境の情報を得る主な手段は何か
- Q15. 市の CO2 排出量は家庭部門からが全国と比べ高い割合であることを知っているか
- Q16. 家庭での CO2 削減・省エネ行動を進めるための「環境家計簿」について
- Q17. 生物多様性という言葉を知っているか
- Q18. 近年、生物多様性の危機が問題として挙げられているが、身近な問題と思うか
- Q19. 本年 4 月策定の「ヨコハマ b プラン」について、特に必要と思うもの
- Q20. 身近に緑を感じられる環境があるか
- Q21. 公園や森林、水辺の広場など身近な自然環境に足を運ぶ頻度
- Q22. 「横浜みどり税」を活用しながら樹林地の保全等を進めていることの認知
- Q23. 市民が負担（みどり税）することについての考え
- Q24. 市の中心部に緑や水辺が多くないことについて優先的に必要なこと
- Q25. 川や海などの身近な水環境を良くするために何をすべきだと思うか
- Q26. 横浜市が住宅用雨水浸透ますの設置に補助金制度を設けていることの認知
- Q27. 横浜産の野菜や果物のシンボルマーク「はま菜ちゃん」の認知
- Q28. 横浜産の農産物を購入したことがあるか
- Q29. 今後、どうすれば農産物直売所を利用したいと思うか
- Q30. 農産物直売所やその他の場所で横浜産農産物を購入しようと思う理由
- Q31. 市民利用型農園で農作業を体験してみたいと思うか
- Q32. 市の取組状況・姿勢への関心
- Q33. 今後、横浜市に優先的に取り組んで欲しい事項
- Q34. 東日本大震災後、災害対策と連携した取組で優先的に取り組むべきこと

3 主な項目の調査結果

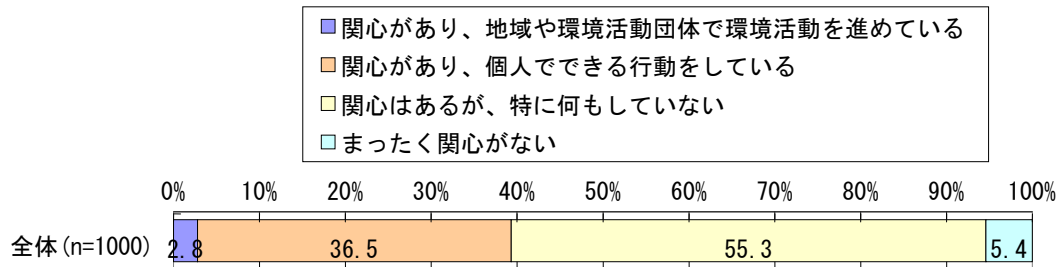
Q 1. 横浜の環境の現状について、どのように感じていますか。



Q 2. 横浜の環境は 10 年前と比べてどのようになったと感じていますか。

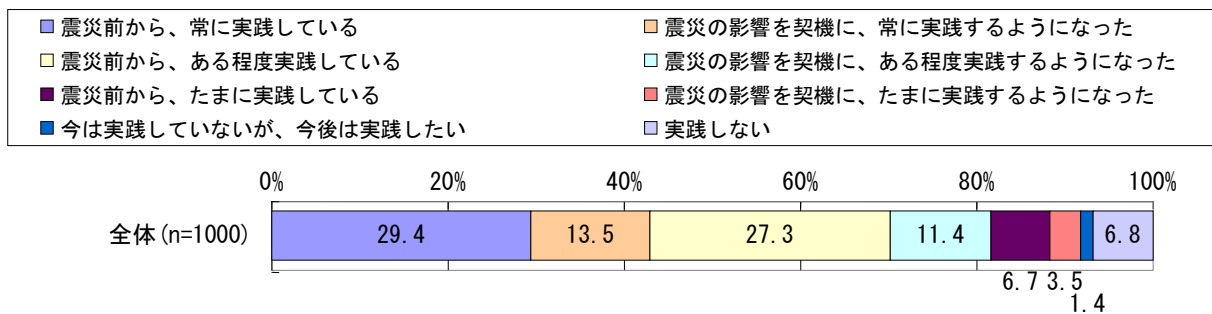


Q 4. 環境に対する関心や行動について。



Q 6-1. 環境にやさしい生活をするために実践していること、震災前後の意識や行動の変化。

・家庭で省エネルールをつくり、電気やガス、水のムダづかいに気をつける。



※ 詳細な調査結果とその分析については、次回の部会にてご報告させていただきます。